

第4章 「三角関数」

15. 加法定理（正弦・余弦）と
その証明（1）

hm2-4-15

(pdf ファイル)



加法定理

2つの角 α と β の **和 $\alpha + \beta$ の三角関数** は、次のように、つねに、 α, β の三角関数で表すことができる。

特に重要なのは、次の4つである。

正弦と余弦の加法定理

$$\boxed{1} \quad \sin(\alpha + \beta) = \sin \alpha \cos \beta + \cos \alpha \sin \beta$$

$$\boxed{2} \quad \sin(\alpha - \beta) = \sin \alpha \cos \beta - \cos \alpha \sin \beta$$

$$\boxed{3} \quad \cos(\alpha + \beta) = \cos \alpha \cos \beta - \sin \alpha \sin \beta$$

$$\boxed{4} \quad \cos(\alpha - \beta) = \cos \alpha \cos \beta + \sin \alpha \sin \beta$$

加法定理 4 の証明

$$\cos(\alpha - \beta) = \cos \alpha \cos \beta + \sin \alpha \sin \beta$$

右の図のように、座標平面上で、
 角 α および角 β を表す動径と
 単位円の交点をそれぞれ P, Q と
 すると、P, Q の座標は

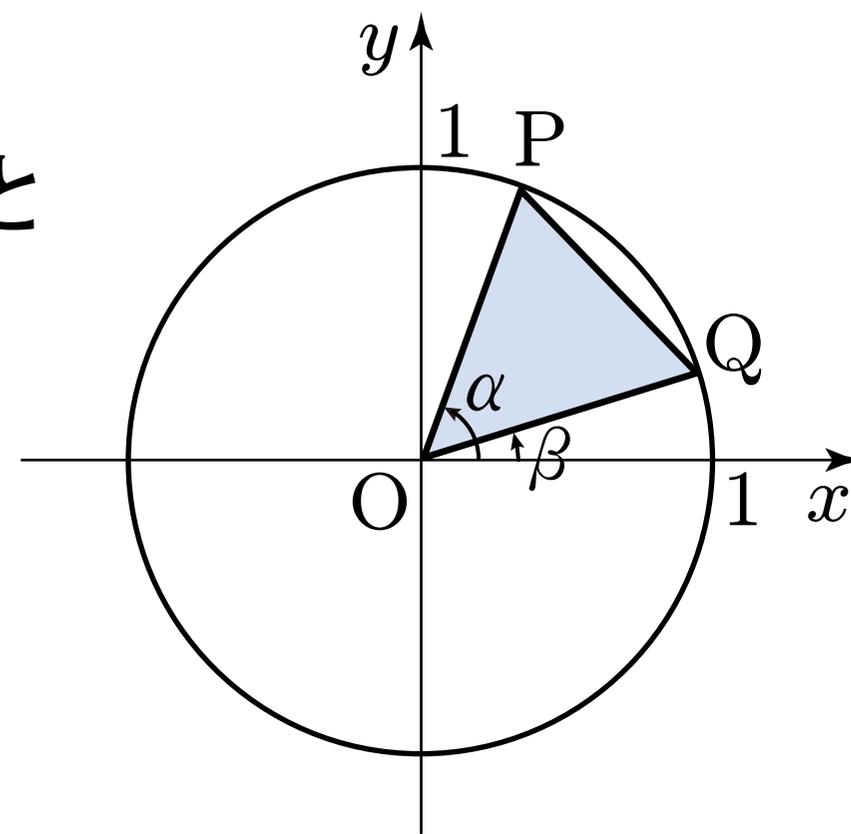
$$P(\cos \alpha, \sin \alpha)$$

$$Q(\cos \beta, \sin \beta)$$

であるから、

$$PQ^2 =$$

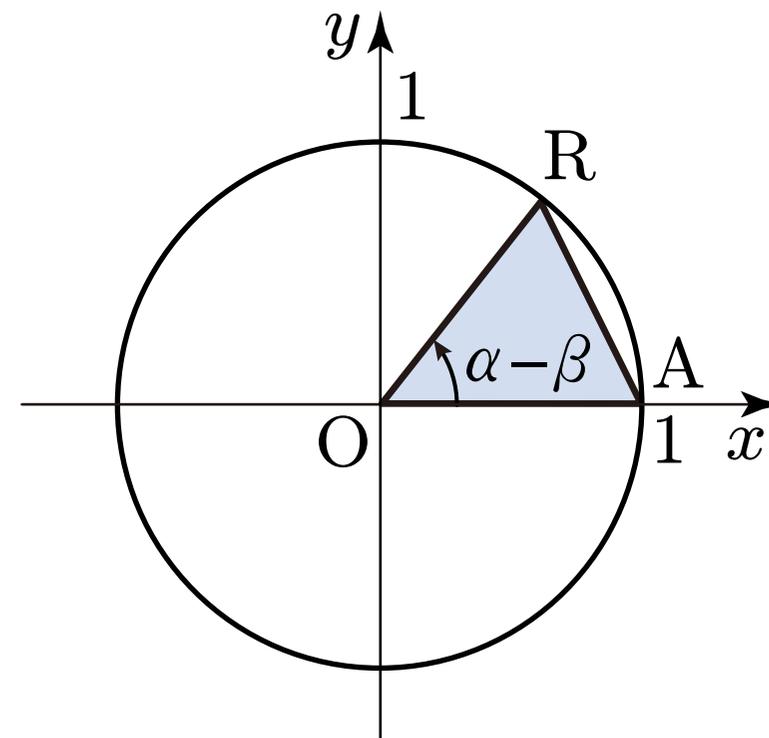
$$=$$



... ①

加法定理 4 の証明 (続)

一方, 原点 O を中心として,
 $\triangle OPQ$ を だけ回転し,
 点 Q が $A(1, 0)$ に重なるよう
 にする. このとき, 点 P が移っ
 た点を R とすると, R の座標は,
 $R(\quad, \quad)$
 である. したがって,



$$RA^2 = \{ \quad \quad \quad \}^2 + \{ \quad \quad \quad \}^2$$

$$= \dots \textcircled{2}$$

$PQ = RA$ であるから, ①と②を見比べて,

$$\cos(\alpha - \beta) = \cos \alpha \cos \beta + \sin \alpha \sin \beta \quad \blacksquare$$

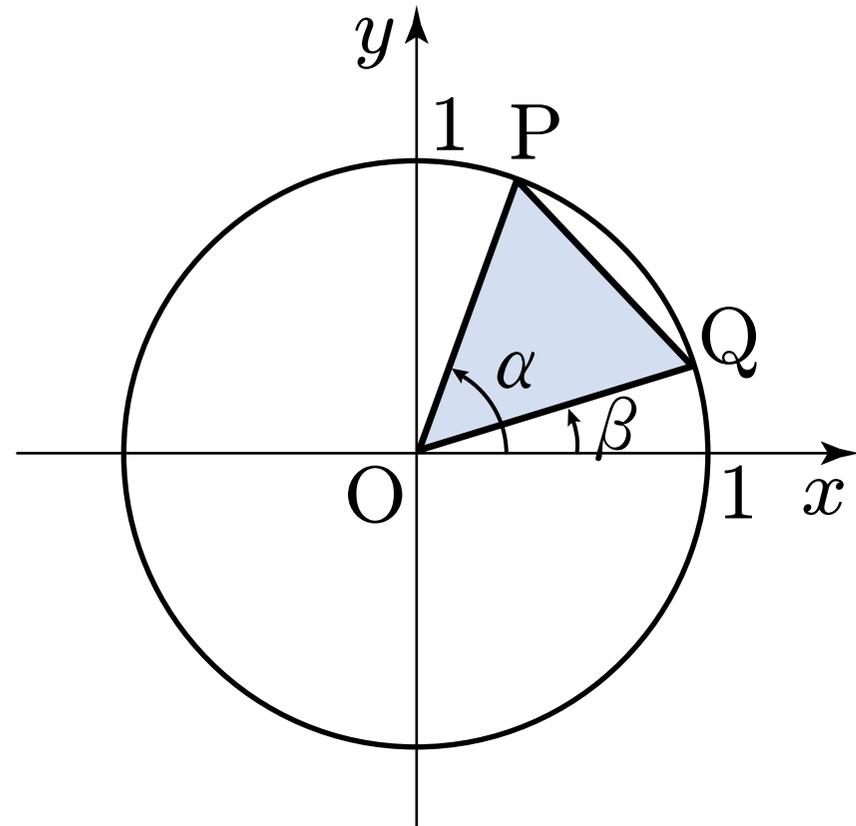
加法定理 4 の別証

三角形 OPQ で、余弦定理を使えば、

$$PQ^2 = OP^2 + OQ^2 - 2OP \cdot OQ \cdot \cos \angle POQ$$

=

=



それぞれの証明の利点を考える

いろいろな配置の場合がある！

